

令和元年度舞鶴工業高等専門学校 外部評価委員会  
外部評価委員の指摘検討事項と対応状況

No.	事項	対応状況	担当部署
1	低学年の頃から英語の必要性に気づかせる取り組みをされてはどうか	次の取組を実施している。 ・低学年向けに希望者が受講する英会話授業を設置して英語ネイティブ話者と会話する機会を設け、英会話能力向上へのモチベーションアップを促している。 ・Student Ambassadors(学内の国際交流のための団体)の活動を通して、国際意識の涵養を促している。 ・TOEIC Bridgeを受験する機会を与え、英語学習へのモチベーションアップを促している。	教務委員会
2	進路の意識がまだ薄い中学1年生に対して進路に関するPR活動をされたら生徒とその保護者の印象に残ることから非常に効果的ではないか	各種イベントでは、中学1年生が参加可能としているものもあるため、中学1年生のみを対象としたイベントは行っていない。 (中学1年生が参加可能なイベントの例) ・オープンキャンパス ・中学生と小学校5・6年生を対象とした「あやべ理工系ことはじめ教室」 ・中学1・2年生を対象とした「先どりサイエンス教室」 ・中学校1～3年生を対象とした「先どりプログラミング教室」	入試広報部会
3	中学校の教員に対して舞鶴高専をより知ってもらう活動をされてはどうか。例えば、中学校教員が舞鶴高専で研修する制度ができないか	令和3年度は、京都府、滋賀県、兵庫県、福井県など延べ275校の中学校を訪問し、中学校の担当教員に対して、本校の説明を行った。また、本校に中学校教員を招いて授業参観と懇談会を実施し、37名の中学校教員に舞鶴高専の教育活動を説明する機会を設けた。	広報委員会
4	舞鶴高専と舞鶴市は様々な面で連携した活動を行っているが、今後さらに京都府北部地域や福井県の近隣地域等の地域課題を学生とともに解決していくような取り組みを進めてほしい	今年度新たな取組として以下のイベントを開催した。 ・京都工芸繊維大学・綾部市と共催で、「あやべ理工系ことはじめ教室」を開催(コロナのため2回中止、結果6/26-11/28の期間に計4回6講座を開催)。 ・8/19に綾部市内の小中学生を対象に綾部ものづくり体験ツアーを企画した。(コロナで中止) ・舞鶴市と共催で、舞鶴高専杯プログラミングコンテスト(11/7)を開催。 ・小浜市内外海(うちとみ)公民館より、小学生対象の出前授業依頼を8/19から延期して調整中。 さらにホテルベルマールから舞鶴市を通じて依頼を受け、学生会が「舞鶴市の潮路通りにイルミネーション実施」の企画協力を行なった。	地域共同テクノセンター
5	舞鶴市の周辺市町村に住む子どもたちはまだまだ舞鶴高専のことを知らないと思われるので、それらの地域に積極的にPR活動を進められてはどうか	主に北近畿地域の小中学生を対象として次のイベントを実施し、理科系の興味関心に気がついてもらう機会を提供した。 ・「ジュニアドクター育成塾」 ・「あやべ理工系ことはじめ教室」 ・「舞鶴高専杯プログラミングコンテスト」 ・「その他 出前授業・公開講座 109件(R3年度予定含む)」	広報委員会
6	舞鶴高専の活動はまだ周知不足と思われるため、写真主体で数ページ程度の広報誌を毎月発行して中学校に配布する活動をされてはどうか	写真を中心とした学生活動の様子を本校ホームページを通じて発信した。発信内容、時期、頻度や訴求媒体について継続して検討していく。	広報委員会
7	日常的な活動の風景、特に楽しそうな学生の様子等をインターネット経由で発信されてはどうか	写真を中心とした学生活動の様子を本校ホームページを通じて発信した。発信内容、時期、頻度や訴求媒体について継続して検討していく。	学術情報センター運営委員会(HP部会)
8	舞鶴高専は府北部にとって財産だと思うが、子どもたちは体験しないと内に秘めた興味関心に気がつかないと思うので、子どもたちにその機会を提供できるようなPR活動を進めてほしい	主に北近畿地域の小中学生を対象として次のイベントを実施し、理科系の興味関心に気がついてもらう機会を提供した。 ・「ジュニアドクター育成塾」 ・「あやべ理工系ことはじめ教室」 ・「舞鶴高専杯プログラミングコンテスト」 ・「その他 出前授業・公開講座 109件(R3年度予定含む)」	広報委員会
9	中学校の教員に対して、舞鶴高専入学後の進級状況といった具体的な実情を説明されてはどうか	退学・留年等の情報について、こちらから積極的に周知することは行っていない。中学校訪問時に質問があれば説明できるよう、過去5年間の進級状況の数字は資料として準備している。	入試広報部会
10	地方人口が減少する中で、舞鶴市だけではなくより広い地域に対するPR活動、特に小中学生を対象として理系の興味を喚起させるようなPR活動を行ってほしい	主に北近畿地域の小中学生を対象として次のイベントを実施し、理科系の興味関心に気がついてもらう機会を提供した。 ・「ジュニアドクター育成塾」 ・「あやべ理工系ことはじめ教室」 ・「舞鶴高専杯プログラミングコンテスト」 ・「その他 出前授業・公開講座 109件(R3年度予定含む)」	広報委員会
11	電子版出席簿のような新しい取り組みを導入する際は課題も多いと思うが、業務効率化の観点から今後も継続してほしい	電子版出席簿の利用を継続して行っている。	教務委員会
12	GOC事業において構築された地域とのネットワークを維持してほしい	前述の「あやべ理工系ことはじめ教室」は、GOCからの繋がりのある京都工芸繊維大学との連携であり、開催した公開講座の多くはGOC事業を経て、本校教員が毎年内容のブラッシュアップを行なって開催している。今後も地域とのネットワークを密に保ち、よりよい関係性を維持していきたい。	地域共同テクノセンター
13	国等の外部資金や長岡・豊橋両技科大の制度を上手く使いながら高専が中心となって地域の中小企業と産学連携できる取り組みを進めてほしい	今年度は、トヨタ財団研究助成に採択されており、「アフター／ウィズ・コロナにおける漁業の包括的なIT活用プラットフォームの構築」をテーマに、地域の課題解決及びそのためのプラットフォーム形成を推進していく予定である。	地域共同テクノセンター